

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書

(平成 29 年度実施事務事業分)

平成 30 年 12 月
能登町教育委員会

はじめに

時代が大きく変化する中で、私たち自身の幸せや豊かさを求めながらも、子や孫たちが能登の地に誇りを持ち、全ての人の人権が尊重され、幸せや豊かさを実感し安心して暮らすことができるよう行動していくことが、私たちの世代に求められています。

こうした認識のもと、本町では平成 27 年 3 月「能登町教育振興基本計画」を策定し、基本理念に掲げる「能登」の地と人に学び 未来を拓くたくましい力をはぐくみ“一歩前へ進む人づくり”を目指し、5つの教育目標を掲げ、学校教育と社会教育、社会体育が連携して積極的に教育行政の推進を図っていきます。

＜教育目標＞

- ・創造力を育て、豊かな心を育み、児童・生徒の個性を生かす学校教育の推進
- ・心豊かで、たくましく生きる力を持つ子どもたちの育成を目指し、学校・家庭・地域の協力・連携による体験活動と公共の精神を重視した心の教育の推進
- ・人々が生涯にわたり、いつでも自由に学ぶことのできる体制の整備と魅力的で活力と積極性に富む人づくりの推進
- ・町の歴史と文化を物語る文化財の保存活用と、埋蔵文化財の発掘推進および公開・活用
- ・健康で明るく、スポーツに親しむ人づくりの推進

平成 30 年度においても、社会の変化や教育の取り巻く課題を見極め、中期的な視点に立って、本町の将来を担う人づくりが町づくりの基盤と考え、学校・家庭・地域が連携して、3つの基本「知」「徳」「体」の調和がとれた“能登っ子”を育てていきます。

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、平成 29 年度の能登町教育委員会の取組について自己点検評価し、外部評価委員の方からご意見をいただき、まとめたものです。能登町教育委員会としては、点検評価の実施を通じて施策の検証を行い、教育施策の効果的な推進に努めてまいりたいと考えています。

平成 30 年 12 月

能登町教育委員会

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

— 目 次 —

I	事務の点検評価	
1	学校教育	
(1)	地域性豊かで活力ある学校教育の実現	3
(2)	豊かな人間性を育む教育の推進	7
(3)	学びを支える安心・安全で魅力ある学校環境の実現	10
(4)	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で取り組む教育力の向上	14
2	社会教育	
(1)	共に学び触れ合う生涯学習の充実	15
(2)	青少年の健全育成と子育て環境の充実	18
(3)	地域文化を高める文化振興事業の充実	20
(4)	未来に伝える文化財の保護と活用	21
3	社会体育	
(1)	健康で活力あふれた人づくりを目指す生涯スポーツの推進	23
(2)	スポーツを通じた多世代・地域間交流の推進	24
(3)	スポーツ施設の活用と整備	26
II	教育委員の主な活動	28
III	平成29年度決算（教育費）の概要	30
IV	評価方法と事業評価シート	31

I 事務の点検評価

1. 学校教育

(1) 地域性豊かで活力ある学校教育の実現

①個を生かし、社会の変化に主体的に対応できる「生きる力」を育む学校教育	
事業名及び事業概要	効果及び評価
<p>①-1 学力向上対策</p> <p>●基礎学力調査(町独自) (1)小学校 3年・5年 ⇒ 4月下旬 (2)中学校 1年・2年 ⇒ 4月下旬</p> <p>●学校補充学習サポーター事業 町内各小学校に、退職教員等5名を配置し、放課後や長期休業中に発展的・補充的学習を実施する。</p> <p>●英語力向上対策事業 (1)中学校 1年 ⇒ 5級 2年 ⇒ 4級 3年 ⇒ 3級</p>	<p>《効果》 調査結果を基に集団や個人の課題を把握し、効果的な取組とその検証を行うことができる。</p> <p>《目標》 小3から中3まで経年的に検証することで今後もきめ細かい指導に繋げる。</p> <p>《効果》 各小学校の現状に応じて、補充学習や個別学習を充実し学力向上につなげることができる。</p> <p>《目標》 算数等の学習のつまづきを解消し、児童の学力を保障する。</p> <p>《効果》 全生徒の英検受験を通して、学校の主体的取組を推進し英語力底上につなげることができる。</p> <p>《目標》 <u>中学3年卒業時の英検3級取得率を5割以上にする。</u></p>

平成29年度 英語検定 合格者数（平成30年2月末現在）						
人数	無	5級	4級	3級	準2級以上	合計
1年生	18	94	3	1		116
2年生	6	25	68	6	1	106
3年生	9	16	42	39	5	111
合計	33	135	113	46	6	333
合格者数割合						
人数	無	5級	4級	3級	準2級以上	合計
1年生	15.5%	81.0%	2.6%	0.9%		100.0%
2年生	5.7%	23.6%	64.1%	5.7%	0.9%	100.0%
3年生	8.1%	14.4%	37.9%	35.1%	4.5%	100.0%
合計	9.9%	40.6%	33.9%	13.8%	1.8%	100.0%

事業名及び事業概要	効果及び評価
<p>①-2 推進校及び指定校による先進的研究</p> <p>●学校向上対策事業 全校を対象に、独自研究を実施する。</p> <p>●学力向上実践研究推進事業 (1)小学校 指 定 校：松波小学校 実 施 日：平成 29 年 10 月 20 日（金） 研究主題：すすんで対話！深い学び！～活発な対話から深い学びをめざして～</p> <p>(2)中学校 指 定 校：小木中学校 実 施 日：平成 30 年 2 月 28 日（水） 研究主題：ホップ・ステップ・ジャンプで見方・考え方を育てる授業の充実～授業改善と「つなぐ」活動を通して～</p>	<p>《効果》 各学校の主体性を引き出し、現状に即した学力向上の取組を行うことができる。</p> <p>《目標》 各校の独自の取組を具体的な成果につなげる。</p> <p>《効果》 指導法の工夫改善や効果的な校内研究を充実させることで、学力向上の成果につなげることができる。</p> <p>《目標》 教師の授業力向上の取組を具体的な成果につなげる。</p>

<p>●海洋教育拠点校推進事業</p> <p>★小木小学校をモデル校に指定（継続）</p> <p>発表日：平成29年10月6日（金）</p> <p>研究主題：「海に親しみ」、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを子どもたちに学ぶ機会を与える。</p>	<p>《効果》</p> <p>海洋教育の取組を通して、郷土に誇りと愛着を持つ心を養い、児童の自己肯定感を高めることができる。</p> <p>《目標》</p> <p>海洋教育の実践成果を町内各学校に普及啓発する。</p>
<p>①-3 読書活動の推進</p> <p>●学校図書館指導員を小・中学校に1名ずつ配置する。</p>	<p>《効果》</p> <p>読書の楽しさ、喜びを育み豊かな心情を養うとともに、学習に応じ利用を図る。</p> <p>《目標》</p> <p>豊かな人間性を育成するため、各校に「学校司書」の配置を目指す。</p> <p>※H29：2名（9校中） 22.2%</p>

数値目標項目	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度実績		平成29年度実績		平成30年度目標	
小学3年 算数	(能登町)	74.1%	(能登町)	87.9%	(能登町)	82.4%	(能登町)	83.7%	(能登町)	85.0%
平均正答率	(全国)	71.5%	(全国)	85.0%	(全国)	76.9%	(全国)	81.6%	(全国)	
中学2年 英語	(能登町)	61.6%	(能登町)	64.3%	(能登町)	69.0%	(能登町)	60.7%	(能登町)	70.0%
平均正答率	(全国)	53.3%	(全国)	61.9%	(全国)	67.5%	(全国)	53.9%	(全国)	

②特別なニーズのある子どもたちを支える教育	
事業名及び事業概要	効果及び評価
②-1 障がいのある子どもの望ましい就学の実現 ●特別支援教育支援員の設置 (1)小学校 13人 (2)中学校 1人	≪効果≫ 特別な支援を必要とする児童生徒の安定的な学校生活を支援できる。 ≪目標≫ 教育支援委員会と連携した望ましい就学の実現を目指す。

③郷土愛を深め、ふるさとに誇りを持てる実践教育	
事業名及び事業概要	効果及び評価
③-1 地域の自然や歴史、伝統、文化に親しむ活動 ●久田和紙による世界に一つだけの卒業証書づくり ●教育活動活性化事業（小木中学校） <ul style="list-style-type: none"> ・職業人講話 ・人権講話 ・里山里海活動（イカ料理・稲作体験）等 ・防災教育（海の怖さを考える） 	≪効果≫ 能登里山を素材にした学習活動を行う。 ≪目標≫ 地域と連携した取組を行うことにより、貴重な地元資源の利活用策を探る。 ≪効果≫ 地域人材を活用する学校独自の取組を推進することで生徒の人格形成を効果的に行うことができる。 ≪目標≫ 里山里海を活用した教育活動を推進する。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

①心ふれあう道德教育の推進	
事業名及び事業概要	効果及び目標
①-1 家庭や地域と連携を図った道德教育の推進 ●いしかわ道德教育推進事業 (1)小学校 指 定 校：鵜川小学校 発 表 日：平成 29 年 11 月 10 日（金） 研究主題：「主体的に考え、学びを深める児童の育成を目指して～つなげる・つながる・ふかめる～」 (2)中学校 指 定 校：小木中学校 発 表 日：平成 29 年 12 月 15 日（金） 研究主題：「思いやりと寛容の心をもちしなやかに粘り強く生き抜くことのできる生徒の育成～人と人とをつなぐ活動を通して～」	<<効果>> 地域と連携した道德教育の取組や、道德の時間の研究実践を通して道德教育の充実を図ることができる。 <<目標>> 道德教育の充実を通して、児童生徒の道德性を高める。

②いじめ、不登校、暴力行為等の予防・解消	
事業名及び事業概要	効果及び目標
②-1 生徒指導・教育相談体制の充実 ●QUアンケートの実施 ・平成 29 年度 年 2 回実施	<<効果>> 児童生徒の状態把握や学級の状態分析により、不登校の未然防止やいじめの早期発見に取り組むことができる。 <<目標>> 不登校・いじめ問題に組織的に取り組む体制を充実する。

<p>②-2 いじめ・不登校への取組の充実</p> <p>●学校ハートフル相談員の設置 ・全中学校（各1名）</p> <p>●ハートフルフレンド派遣事業 ・ハートフル相談員（砂山氏）への委託事業（全校）</p>	<p>《効果》 第三者的な存在の配置により、悩み等を気軽に話す環境を整え、生徒の心の問題に対処することができる。</p> <p>《目標》 生徒のストレスを和らげ、心にゆとりがもてる環境を提供する。</p> <p>《効果》 教員や保護者カウンセリングにより、状態の緩和と保護者等の不安の解消を図ることで復帰に向けた支援を行うことができる。</p> <p>《目標》 不登校状態の改善と解消を図る。</p>
---	--

【上半期問題行動等の状況調査】

数値目標項目	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標
いじめの認知件数	（小学校） 4件	（小学校） 1件	（小学校） 2件	（小学校） 0件
	（中学校） 2件	（中学校） 5件	（中学校） 4件	（中学校） 0件
	計 6件	計 6件	計 6件	計 0件
不登校の児童生徒数	（小学校） 2件	（小学校） 1件	（小学校） 1件	（小学校） 0件
	（中学校） 9件	（中学校） 7件	（中学校） 6件	（中学校） 0件
	計 11件	計 8件	計 7件	計 0件
暴力行為の発生件数	（小学校） 0件	（小学校） 0件	（小学校） 0件	（小学校） 0件
	（中学校） 1件	（中学校） 1件	（中学校） 0件	（中学校） 0件
	計 1件	計 1件	計 0件	計 0件

※不登校の状況については、30日以上欠席日数にかかわらず、不登校及び不登校と思われる児童生徒とする。

③子どもが未来へ飛躍できる能力・意欲の育成	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>③-1 体験活動の充実</p> <p>●姉妹都市交流事業</p> <p>(1)小学生交流事業（千葉県流山市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月31日（月）～8月2日（水） ・参加者：30名（派遣） <p>(2)中学生交流事業（宮崎県小林市）能登町受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月22日（土）～24日（月） ・交流員：小林市17名 能登町8名 	<p>《効果》</p> <p>姉妹都市との児童・生徒の交流・体験を通し見聞を広める。</p> <p>《目標》</p> <p>事業実施が夏休み期間に限定されているため、ホームステイ・ホストファミリーを円滑に確保する。</p> <p>引き続き体験交流活動を実施し、姉妹都市との友好関係を深める。</p>
<p>③-2 国際的な体験機会の充実</p> <p>●外国語指導助手の配置</p> <p>JETプログラム （語学指導等を行う外国青年招致事業）による</p> <p>(1)ペグラム ジェシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：鶴川小・宇出津小 ・中学校：柳田中・能都中 <p>(2)マッカーシー メーガン アン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：柳田小・松波小・小木小 ・中学校：松波中・小木中 <p>●中学生海外派遣事業（豪州）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間：平成29年7月26日（水）～8月4日（金） 10日間（ホームステイ6泊・ホテル2泊） ・参加者：10名（男子6・女子4）、随員2名 	<p>《効果》</p> <p>外国の言語や文化をALTとのコミュニケーションを通して深められる。</p> <p>《目標》</p> <p>学校における外国語の取組が拡大されることから、さらなる充実を図る。</p> <p>《効果》</p> <p>体験学習活動や交流を通じて、人材育成を図る。</p> <p>《目標》</p> <p>国際感覚を持った人材の育成を目指し、参加者数の増加に努める。</p>

(3) 学びを支える安心・安全で魅力ある学校環境の実現

①安全・安心な学校施設整備	
<p>①-1 学校施設の維持・管理 老朽化に伴う維持管理、修繕に努めた。</p> <p>●小中学校大規模改造事業 平成 29 年度においては実施なし</p>	<p>《効果》 平成 28 年度において全小中学校、 体育施設の耐震対策工事が完成。</p> <p>《目標》 ※学校施設の安全対策を進める。</p>

②質の高い教育を実現する指導体制	
<p>②-1 I C T環境の充実</p> <p>● I C T機器整備 授業用タブレット機器を各小中学校に導入する (平成 27 年度 18 台、平成 28 年度 15 台、平成 29 年 度は小学校に Microsoft 社 surfacebook を 74 台) ほ か、教育用支援ソフト、デジタル教科書等を整備す る。</p> <p>●学校 I C T支援員配置業務 ・契約相手先：アイネット ・各校週 2 回、巡回点検指導できるよう「学校 I C T支援員」を 2 名配置する。(6 時間×9 校×41 週)</p>	<p>《効果》 I C T機器を活用し、授業の質を高 める。</p> <p>《目標》 全教師に配布するよう年次計画等 を作成し、整備を進める。</p> <p>《効果》 I C T機器類の操作、技術支援を行 うことにより、授業の質を高める。</p> <p>《目標》 教育の情報化時代に向けた整備を 進める。</p>

③安心・安全で栄養バランスがとれたおいしい学校給食の充実	
事業名及び事業概要	効果及び目標
③-1 学校給食事業 ●共同調理化の推進 老朽化に伴う維持管理、修繕に努めた。 ・学校給食調理員 小木小学校 16人 (H29) 小木中学校 4人 (H29) ●おさかな給食の実施 ・全校で実施 ・構成員：漁協、加工センター、学校(栄養教諭)、 県水産総合センター、農林水産課、教育委員会	≪効果≫ 調理場、配達車等の整備を行うことにより、安全な給食を提供する。 ≪目標≫ 各小中学校の共同調理化事業が完了。 ≪効果≫ 給食を通じて、ふるさとの味や生活様式を把握する。 ≪目標≫ 地産地消を推進するとともに、安心・安全な給食の提供に努める。

④子どもたちの公平な教育機会の確保	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>④-1 経済的・地理的条件に対する支援</p> <p>●育英事業（奨学金）</p> <p>(1)継続貸付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四大生（30 千円）：6 人 ・短大、専修、高専生（25 千円）：0 人 ・高校生（20 千円）：0 人 <p>(2)新規貸付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四大生（30 千円）：0 人 ・短大、専修、高専生（25 千円）：0 人 ・高校生（20 千円）：0 人 <p>●児童通学費助成</p> <p>児童・生徒通学費（路線バス定期補助）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳田小学校：39 名 ・小木小学校：8 名 ・柳田中学校：19 名 ・能都中学校：54 名 ・松波中学校：9 名 	<p>《効果》</p> <p>経済的条件が不利な生徒に対して公平な教育・進学のを確保する。</p> <p>《目標》</p> <p>引き続き、奨学資制度の充実を図る。</p> <p><u>※資格が必要な職種の就業支援の検討が必要である。</u></p> <p>《効果》</p> <p>遠距離のため通学が困難な者に対し、バス通学定期運賃購入費を補助することにより、負担軽減を図る。</p> <p>《目標》</p> <p>引き続き、経済的負担の軽減を図る。</p>
<p>④-2 保護者負担の軽減</p> <p>●プール利用助成金</p> <p>・鵜川小学校に対し、なごみプール利用料を補助する。(6月～8月) 延べ474人</p>	<p>《効果》</p> <p>鵜川小学校にプールがないため、「なごみ」を代替使用する。</p> <p>《目標》</p> <p>引き続き、経済的負担の軽減を図る。</p>

<p>●要保護・準要保護児童生徒就学援助事業</p> <p>(1)小学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護：1人 ・準要保護：67人（学用品、医療費、給食費） ・特別支援教育児童就学奨励費：4人 <p>(2)中学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準要保護：49人（学用品、医療費、給食費、修学旅行費） ・特別支援教育児童就学奨励費：1人 	<p>《効果》</p> <p>要保護・準要保護に加え、特別支援教育児童生徒についても就学支援を行う。</p> <p>《目標》</p> <p>引き続き、就学援助を行う。</p>
---	---

数値目標項目	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標
能登町奨学資金	(高校生) 0名	(高校生) 0名	(高校生) 0名	(高校生) 2名
申請者	(短大・専修・高専) 0名	(短大・専修・高専) 0名	(短大・専修・高専) 0名	(短大・専修・高専) 2名
	(4年大学) 4名	(4年大学) 1名	(4年大学) 0名	(4年大学) 5名

(4) 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で取り組む教育力の向上

①地域とともにある学校づくり	
事業名及び事業概要	効果及び目標
①-1 開かれた学校運営 ●学校評議員の配置 ・地域に開かれた学校運営をめざし、各小中学校に最大5名ずつ配置する。 ・学校長推薦による。	≪効果≫ 家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図る。 ≪目標≫ コミュニティスクール（学校運営協議会の設置等）の導入時期の検討が必要となる。

②社会全体での子どもたちの学びの支援	
②-1 放課後子ども教室との連携・支援 ●放課後子ども教室の設置 ・実施場所：柳田教養文化館 ・実施日：毎週4回教室 ・事業内容：工作、読み聞かせ、将棋、囲碁、自習見守り等	≪効果≫ 子供たちの活動拠点（居場所）を確保し、体験活動や地域住民との交流活動等を行う。 ≪目標≫ 引き続き、放課後子ども教室を実施する。

③豊かなつながりの中での家庭教育支援	
③-1 魅力ある学習機会の提供 ●教育用支援ソフト（eライブラリ）を活用した「子どもたちの家庭学習」「学校と家庭の情報共有」	≪効果≫ 学習機会を増やすことで、家庭での学習成果を高める。 ≪目標≫ 学校と家庭が連携した学びを実現する。

2. 社会教育（公民館関係）

（1）共に学び触れ合う生涯学習の充実

①生涯学習の推進と公民館活動の充実	
事業名及び事業概要	効果及び目標
①-1 生涯学習事業の推進 ●まちづくり出前講座 <ul style="list-style-type: none"> ・講座数：123 件 ・受講者数：3,675 人 	≪効果≫ 町民の自己啓発や生活向上のため、生涯を通じて学べる機会を提供することができた。 ≪目標≫ さらなる学習機会の提供のため、新規講座開設や事業周知に努める。

<p>●生涯学習振興大会の開催 日 時：平成 30 年 2 月 25 日（日） テーマ：歴史を伝承し、人と地域をつなごう 参加者：約 300 人 講 演：露の団姫 「一隅を照らす ～自分の持ち場で一生懸命～」 その他 ※神野、白丸公民館の事例発表や、各公民館活動を紹介 ※中学生による作文「私が町長だったら」の入選作品紹介</p> <p>●社会教育活動の支援 町文化協会、町婦人団体協議会、町 PTA 連合会等に対する活動支援</p>	<p>《効果》 町民の連帯意識の高揚を図り、今後の生涯学習社会の進展に役立てた。</p> <p>《目標》 大会参加者が増えるように事業周知に努めるとともに、参加者が新たな学びを得られるように内容を充実させる。</p> <p>《効果》 団体のみでは実施できない社会教育活動を支援できた。</p> <p>《目標》 限られた財源の範囲内で、各団体の自主性を尊重する。</p>
<p>①-2 公民館活動の推進</p> <p>●公民館活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動推進事業 ・特色ある活動事業 	<p>《効果》 事業を通じた地域の交流や世代間交流により、地域を活性化させることができた。</p> <p>《目標》 地域の特性を踏まえ、15 公民館で取り組むよう支援する。</p>

数値目標項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標
まちづくり出前講座数	97 講座	97 講座	100 講座
まちづくり出前講座 受講件数	(受講件数) 115 件	(受講件数) 123 件	(受講件数) 150 件
	(受講者数) 3,112 人	(受講者数) 3,675 人	(受講者数) 4,500 人

②生涯学習施設の適正管理と有効活用	
②-1 図書館機能の充実及び適正管理 ●図書館事業 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会委員：5人 ・図書館及び図書室：中央図書館 柳田教養文化館 松波公民館図書室 	≪効果≫ 中央図書館を地域の情報拠点、発信施設としての機能を充実させる。 ≪目標≫ 図書・蔵書が未整理であり、引き続き図書整理作業を進める。
②-2 社会教育施設整備と機能充実 ●社会教育施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・羽根万象美術館、星の観察館「満天星」、真脇遺跡縄文館、テニス資料館、ドブネ収蔵庫等の管理 	≪効果≫ 社会教育施設、文化施設として一体的に整備する。 ≪目標≫ 町民が誰でも気軽にふれあえる歴史・文化施設として計画的に整備する。 ※「町内文化遺産保存活用基本計画に伴う事業計画を推進する。

数値目標項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標
中央図書館 利用状況	(利用者数) 19,624人 (貸出冊数) 24,857冊	(利用者数) 19,356人 (貸出冊数) 26,679冊	(利用者数) 18,202人 (貸出冊数) 27,382冊	(利用者数) 20,000人 (貸出冊数) 25,000冊
教養文化館 利用状況	(利用者数) 15,133人 (貸出冊数) 10,285冊	(利用者数) 15,717人 (貸出冊数) 13,867冊	(利用者数) 13,659人 (貸出冊数) 14,885冊	(利用者数) 13,000人 (貸出冊数) 15,000冊

(2) 青少年の健全育成と子育て環境の充実

①青少年の健全な成長の支援	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>①-1 青少年を地域ぐるみで育む環境整備の推進</p> <p>●青少年育成センター運営協議会 ・運営協議会委員：4人</p> <p>●能登町なんでも相談室「カナリア」 ・毎週火曜日・木曜日 ・午前10時～午後2時 ・相談件数：39件</p>	<p>≪効果≫ 各関係団体との連携を図るとともに、組織づくりを行う。</p> <p>≪目標≫ 独自事業を展開する。</p> <p>≪効果≫ 悩みを持つ青少年及び保護者等への適切な指導・助言を行う。</p> <p>≪目標≫ 相談者に応じた迅速、柔軟な対応とDV根絶に向けた周知活動を行う。</p>
<p>①-2 青少年の自立と社会参画に向けた支援の充実</p> <p>●各種式典の開催 (1)成人式 日 時：平成30年1月7日（日） 参加者：166名</p> <p>(2)立志の集い 日 時：平成30年2月1日（木） 参加者：108人（対象：中学2年） 講 演：北陸放送株式会社 代表取締役社長 京村 英二氏 「昨日と同じことは一つもない」</p>	<p>≪効果≫ 大人になる自覚等を醸成することにより、郷土愛を育む。</p> <p>≪目標≫ 各種式典をとおして青少年の自覚を促し社会参画に向けた支援を行う。</p>

数値目標項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標
なんでも相談カナリア 電話相談件数	63件	39件	30件

<p>②子育て環境の整備と充実</p>	
<p>②-1 子育てに対する支援と地域社会の協力体制の充実</p> <p>●男女共同参画事業</p> <p>(1) 男女共同参画推進審議会：12名</p> <p>(2) 平成 29 年度能登町男女共同参画啓発講演会 「ふらっとミニセミナー」</p> <p>(3) 男女共同参画啓発紙芝居の利活用</p>	<p>《効果》 男女共同参画推進に向けた各種活動の向上</p> <p>《目標》 男女共同参画社会の推進を加速させる土壌の形成。</p>

(3) 地域文化を高める文化振興事業の充実

①町民の芸術・文化・芸能活動の促進と支援	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>①-1 舞台芸術等に関する鑑賞機会の提供</p> <p>●青少年育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールシアター（芸術鑑賞推進事業） 日時：平成 29 年 6 月 1 日（木） 場所：柳田小学校 対象：小学校 4 年～6 年（356 名） ※会場校は全児童が鑑賞 ・県民移動能事業 日時：平成 29 年 5 月 23 日（火） 場所：能都中学校 対象：中学校 3 年（239 名） ※会場校は全児童が鑑賞 ・文化芸術による子供の育成事業 巡回公演事業 日時：平成 29 年 9 月 20 日（水） 場所：柳田小学校 対象：小学校 5 年～6 年（274 名） ※開催校は 4～6 年生、柳田中学校は全生徒 	<p>≪効果≫ 石川芸術鑑賞推進委員会の協力の下、鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養を図る。</p> <p>≪目標≫ 平成 30 年度も継続して鑑賞機会の拡大を図る。</p>
<p>①-2 文化・芸術活動の活性化に向けた支援</p> <p>●文化・芸術活動の拠点づくり</p> <p>(1)文化協会 団体数：74 団体</p> <p>(2)町民文化祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：平成 29 年 11 月 4 日（土）～5 日（日） ・場所：内浦体育館、第 2 内浦体育館 ・入場者数：1,705 名 ・内容：芸能発表のほか、絵画、書道、盆栽等各団体からの作品展示。 	<p>≪効果≫ 能登町民の文化向上・発展に寄与する。</p> <p>≪目標≫ 文化・芸術活動を積極的に支援するため、各種団体の活動支援を行うほか、町民・団体交流を通して、文化意識の高揚を図る。</p>

数値目標項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標
羽根万象美術館利用状況 (能登町立美術館)	(利用者数) 1,832 人	(利用者数) 1,743 人	(利用者数) 2,000 人

(4) 未来に伝える文化財の保護と活用

①文化財を守る	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>①-1 歴史民俗資料等の保存・継承</p> <p>●文化財保護事業</p> <p>(1)能登内浦のドブネ保存修理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドブネ3隻の搬入等 <p>(2)中谷家住宅保存活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中谷家住宅調査検討委員会の設置(7月) ・中谷家住宅の調査 <ul style="list-style-type: none"> 建造物調査(屋敷構え全体) 古文書調査(築造年代と改修歴の確認) 庭園調査(様式の確認) 	<p>《効果》</p> <p>ドブネ保存修理事業は、貴重な資料を展示することで、「漁業の町」をアピールする。</p> <p>中谷家住宅の調査については、成果を今後の保存修理に活用する。</p> <p>《目標》</p> <p>ドブネ保存修理事業について、平成29年度以降はドブネ本体の修理に取りかかり、平成32年度に保存修理事業を完了する。</p> <p>中谷家住宅保存活用事業は、平成31年度の前半に報告書を取りまとめ、刊行する。</p>

②文化財を伝える	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>②-1 史跡等事業の推進と活用策</p> <p>●遺跡整備事業</p> <p>(1)真脇遺跡整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査出土品整理 ・出土木製品保存処理 ・地下水位観測 <p>(2)松波城址整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名勝旧松波庭園の発掘調査 保存整備のための環境調査 庭園地区の建物遺構周辺の調査 ・松波城跡の発掘調査 城跡の範囲・内容調査 ・上記基本計画策定 平成 29 年 1 月 11 日策定答申 <p>●地域文化遺産活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文小屋の完成 (8 月) ・ワークショップの開催 (9 月) 	<p>《効果》</p> <p>真脇遺跡・旧松波城庭園及び松波城跡は、発掘調査等で明らかとなった内容を保存整備し、生涯学習や郷土教育の場として位置づける。</p> <p>《目標》</p> <p>真脇遺跡第 2 期整備に向けた取組として、今後成果報告書の作成、刊行を行っていく。旧松波城庭園及び松波城跡は、平成 33 年度の公開を目指す。</p>

数値目標項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標
真脇遺跡縄文館 入館者数	5,494 人	4,742 人	6,500 人

3. 社会体育（生涯スポーツ関係）

（1）健康で活力あふれた人づくりを目指す生涯スポーツの推進

①スポーツ活動の普及と機会拡充	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>①-1 生涯スポーツ、ニュースポーツ運動の推進</p> <p>●武道教育 ・平成 24 年度より武道の必修化に伴い、柔道、剣道、相撲を実施している。</p>	<p>《効果》 基本動作や基本技を身に付けることにより、日本固有の精神文化を体得する。</p> <p>《目標》 武道の伝統的な考え方を理解する。</p>
<p>①-2 スポーツ団体の育成・支援及び振興</p> <p>(1) スポーツ推進委員（16名） ・ペタンク実技研修会 ・北陸地区スポーツ推進委員研修会 ・石川県スポーツ推進委員研修会 等</p> <p>(2) 能登町スポーツ表彰式の開催 ・日時：平成 30 年 3 月 1 日（木） ①スポーツ賞（個人）3人 ②スポーツ奨励賞（個人）29人 （団体）9団体 ③スポーツ振興賞 1人</p> <p>(3) アスリート強化支援事業補助金</p>	<p>《効果》 地域におけるスポーツの実践活動及び研修会を行うことにより、生涯スポーツの振興に寄与する。</p> <p>《目標》 ペタンクの町内普及を図る。生涯を通してスポーツに親しむ環境づくりを推進する。</p> <p>2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピック出場選手の輩出を目指す。</p>

(2) スポーツを通じた多世代・地域間交流の促進

①スポーツ交流事業の充実	
事業名及び事業概要	効果及び目標
①-1 スポーツに親しむ機会の提供 公民館対抗第 10 回町民ソフトバレーボール大会 ・日時：平成 30 年 1 月 28 日（日） ・場所：内浦体育館 ・参加者数：男子 12 チーム、女子 5 チーム 計 95 名	≪効果≫ 町民の健康増進を推進するとともに、地域住民の親睦を図り、健康で明るく活力ある町づくりに寄与する。 ≪目標≫ ソフトバレーボールを通して、町民の健康増進、地域住民の親睦と公民館下の団結力の向上、健康で明るく活力ある町づくりに寄与する。
①-2 参加型スポーツ、地域スポーツ活動の推進 ●(1) 第 7 回能登町民大運動会 ・日時：平成 29 年 10 月 8 日（日） ・場所：内浦総合運動公園 ・参加地区：14 地区 16 チーム ・来場者数：3,000 人 (2) 第 31 回猿鬼歩こう走ろう健康大会 ・日時：平成 29 年 5 月 7 日（日） ・場所：柳田運動公園 ・参加者数：1,412 人（前年 1,973 人） ・種目：歩こうの部⇒3 部、走ろうの部⇒17 部 ・ゲスト：大森 重宜（金沢星稜大学教授）	≪効果≫ 運動会やウォーキング、ランニング大会などを通して、生涯スポーツを啓発普及する。 ≪目標≫ すべての町民を対象にしたスポーツ大会を開催することにより、参加者の親睦及び交流を促進する。

数値目標項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標
猿鬼歩こう走ろう健康大会 参加者数	1,973 人	1,412 人	1,400 人

②スポーツの町づくり事業の推進	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>②-1 各種大会の開催及び合宿等の誘致</p> <p>●国際大会・全国大会の誘致及び開催</p> <p>(1)全日本学生ソフトテニス大会（女子の部） ・日時：平成 29 年 8 月 4 日（金）～10 日（木） ・会場：能都健民、内浦総合運動公園テニスコート ・出場：65 校</p> <p>(2)神和住エンジョイテニスフェスティバル ・日時：平成 29 年 10 月 14 日（土）～15 日（日） ・講師：神和住 純、平井 健一、平木 理化、 小畑 沙織</p>	<p>《効果》 テニス大会の開催とともに、体験レッスンやプロテニスプレーヤーと交流することにより、スポーツによる町づくりを推進する。</p> <p>《目標》 大学・一般社会人等のスポーツイベント、合宿などの交流人口の拡大を目指す。</p>
<p>②-2 総合型地域スポーツクラブの推進</p> <p>●総合型地域スポーツクラブの設立 子どもから高齢者を対象に、様々なスポーツを愛好する人々の各々のレベルに応じたスポーツクラブの設置をする。</p>	<p>《効果》 生涯スポーツを推進するため、各種団体との連携を図る。</p> <p>《目標》 地域コミュニティを担う役割の一つとして設置を目指す。</p>

(3) スポーツ施設の活用と整備

①社会体育施設の機能充実	
事業名及び事業概要	効果及び目標
①-1 施設の維持管理 ●指定管理施設 (株)ふれあい公社 指定管理施設 (H29～H33) ・藤波運動公園、能都体育館、能都野球場 ・内浦総合運動公園 (公社)能登町シルバー人材センター 指定管理施設 (H29～H33) ・柳田野球場、柳田体育館	≪効果≫ 指定管理することにより、地域住民が安心して利用できる。 ≪目標≫ 社会体育施設の管理方法、指定管理者への委託方法等を再検討する。

②学校体育施設の有効活用	
事業名及び事業概要	効果及び目標
<p>②-1 学校施設開放と活用</p> <p>●学校施設開放利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳田小学校体育館 (町バドミントン協会、柳田剣道教室) ・柳田小グラウンド (柳田野球スポーツ少年団等) ・鶯川小学校体育館 (ソフトテニススポーツ少年団、ドッジボールクラブ) ・宇出津小学校グラウンド (能都野球スポーツ少年団) ・小木小学校体育館 (小木ミニバスケットボールクラブ) ・松波小学校グラウンド (松波野球スポーツ少年団 等) <p>●廃校舎と有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧柳田小学校体育館 ⇒ ゲートボール ・旧中斉小学校体育館 ・旧神野小学校体育館 ・旧真脇小学校体育館 等 	<p>《効果》 日常生活におけるスポーツ活動に対する支援として効率的な学校施設の利用を図る。</p> <p>《目標》 学校教育に支障のない限り、学校の体育施設の効率的な利用を促進する。 体育施設利用料と利用者負担を検討する。</p> <p>《効果》 地域住民がスポーツに親しむことができるよう管理する。</p> <p>《目標》 施設の利用状況と安全性の調査を行い、利活用策を検討する。</p>

II 教育委員会の主な活動状況

1 能登町教育委員会

職 名		氏 名
教 育 長		中 口 憲 治
教 育 委 員	教育長職務代理者	上 乗 秀 雄
	委 員	仲 谷 由 美
	委 員	一 谷 美 枝 子
	委 員	上 見 正 人

2 教育委員会議の実施状況

(1) 開催回数

定例会 12回

臨時会 1回

(2) 付議件数

議案及び報告等 37件

3 総合教育会議の実施

平成29年4月27日

協議案件

- ・教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について
- ・デジタル教科書の整備について

4 教育委員が出席した主な活動内容

○指導計画訪問

- 5月12日 小木小学校
- 5月31日 小木中学校
- 6月21日 能都中学校
- 6月22日 柳田小学校
- 6月30日 鵜川小学校
- 10月12日 能都中学校
- 11月6日 柳田小学校
- 11月13日 柳田中学校

○研究授業等

- 10月6日 海洋教育拠点校推進事業（小木小学校）
- 10月20日 学力向上実践研究推進事業（松波小学校）
- 11月10日 いしかわ道德教育推進事業（鵜川小学校）
- 11月21日 学びの組織的実践推進事業（松波中学校）
- 12月15日 いしかわ道德教育推進事業（小木中学校）

○石川縣市町教育委員会連合会等の研修会等

- 5月9日 石川県教育委員会連合会定期総会
- 8月1日 石川縣市町教育委員セミナー
- 10月13日 石川県教育委員会連合会研究大会

○教育委員会の活動等

- 4月5日 各小中学校入学式
- 5月7日 猿鬼歩こう走ろう健康大会
- 8月28日 能登町子ども議会
- 11月12日 能登町PTA研究大会
- 1月7日 能登町成人式
- 2月1日 立志の集い
- 2月25日 能登町生涯学習振興大会
- 3月1日 能登町スポーツ表彰式
- 3月9日～15日 各小中学校卒業式